

【南毛利地区】令和4年度自治会長と市長とのまちづくりフリートーク実施結果【最終報告】

日時: 令和4年8月19日(金) 午後5時45分～午後7時15分  
 会場: 南毛利地区市民センター  
 参加者: 地区の自治会長(33名)、公民館地区館長、市長、副市長、教育長、市長室長、許認可担当部長、道路部長、地区市民センター所長

テーマ『防災・減災』

災害による被害をできるだけ少なくするためには、一人一人が自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、行政が取り組む「公助」が重要だと言われている。  
 その中で「共助」を担っている自主防災隊＝自治会では、日頃から各地域で防災訓練等の自主防災活動を行っている。地域で防災活動に取り組み、地域で助け合うことは、災害に強いまちづくりにつながるものと考えます。  
 尊い命を救い、被害を少しでも減らすため、今できること、しなければならないことを行政とともに考えていきたいと思い、このテーマとした。

自治会長からの意見

市長等からの回答

意見1 ブロック塀について

【戸室二丁目自治会長】  
 ■厚木市のセーフコミュニティの理念のなかに「事故やけがは予防できる」との考えがあり、南毛利地区でも年間を通じて「安心・安全なまち会議」が開催され、青パト運行や徒歩による安心安全パトロール、安全ニュースの発行、啓発看板・のぼり旗の設置(会場に旗を貼る)など、延べ177日 1,847人が様々な活動に取り組んだ。  
 平成30年の大阪北部地震では、小学校のブロック塀が倒壊し、下敷きになった小学4年生の女児1人が犠牲となる事故があった。危険なブロック塀について、市内で同様の事故が起こらないように市や地域でできることなど検討していきたい。  
 ①市として把握している危険ブロック塀はいくつあるのか。特に、通学路などの優先的に対応した方が良いと思われる場所へどのようなアプローチをし、改善しているのか。  
 ②厚木市地域防災計画には、必要があれば市が点検するとあるが、これまで実績があるか。また、今後の計画の予定はあるか。  
 ③「危険ブロック塀等防災工事補助金」要綱は、平成19年に施行されているが令和4年現在まで、どのように周知したか、また、補助金の実績について教えてほしい。  
 危険ブロックは把握しても費用を気にして言い出せない人もいるため、自治会の方からも補助金等については周知していきたいと思う。

【市長】  
 ■危険と思われるブロック塀の調査を進めており、実際に改善ができた場所もある。皆さんで気付かれたことがあれば情報をいただきたい。  
 【市長室長】  
 ■危険ブロック塀については、平成19年度から昨年度までに市危険ブロック塀等防災工事補助金制度の活用により、171件の対策工事を実施した。  
 平成30年6月の大阪北部地震以降、危険ブロック塀の問い合わせや現地確認依頼が90件以上あり、個別点検や一部助成に関する周知を行ったほか、特に危険と判断したブロック塀については、改善指導を行っている。今後も、問い合わせがあった際は同様に対応していく。  
 <現況・今後の対応等>  
 ■危険と判断したブロック塀については、改善指導を行っていく。(危機管理課、建築指導課)  
 <中間報告以降の状況等>  
 ■今後も地域からの情報があつた際は、危機管理課及び建築指導課で現地確認を行い、必要に応じて改善指導等を行っていく。

意見2 災害復旧について

【長谷清水自治会長】  
 ■令和3年7月3日の大雨の際に、南毛利スポーツセンター南側のり面の崩落及び市道舗装路面のひび割れが身近な場所で発生した。発生当日と翌日、市から、市長、部長が現地の確認に来られ、緊急対応の指示がされた。応急復旧工事は、7月の現地調査から始まり、工事期間は12月まで及んだ。応急対策の位置づけではあるが、本復旧相当の対策工の実施であり、安心して生活できる環境に戻ったことにお礼を申し上げる。  
 のり面对策工事が行われた場合、現在の警戒区域の指定解除はされるのか。

【市長】  
 ■南毛利スポーツセンター周辺のり面の崩落等の対応については、まだ仮復旧のため、今後しっかりと調査し、対応していきたい。全体の仕上がりは数年掛かると思っている。  
 警戒区域の指定解除については、対策工事の工法や範囲等が関係するため、県とも協議し対応していく。  
 <現況・今後の対応等>  
 ■9月補正において、測量・土質調査・実施設計の委託費を計上し、議決後、速やかに発注できるよう準備を進めた。工事の範囲が広いため、令和4年度・5年度にかけて継続的に対応していく。(道路整備課、スポーツ推進課)  
 <中間報告以降の状況等>  
 ■西側斜面の約70mについては、令和4年度の当初予算で計上した測量及び土質調査は既に完了し、設計委託についても概ね完了している。  
 また、9月に補正予算で対応した約230mについては、11月から測量及び土質調査を開始し、12月からは設計委託も実施している。  
 なお、工事については、令和5年度から順次実施し、完成を目指していく。

**意見3 防災スタンプラリーについて**

**【愛名第三自治会長】**

■2年前から防災訓練ができなくなり、何か防災について周知できることはないか考え、防災スタンプラリーを始めることになった。自治会で作っている防災マップを活用し、防災に関する場所を回ってもらっている。スタンプラリーには、防災訓練に参加していなかった一般の人も参加してくれるようになった。今年も防災訓練ではなく、スタンプラリーを検討している。

**【市長】**

■防災スタンプラリーについては、地区の取組としてとてもすばらしく、また、地震と風水害では避難場所が違うことを周知する意味でも非常に意義のある取組である。今後とも、続けてほしい。

**＜現況・今後の対応等＞**

■とても良い取組で、これからも続けてほしい。(危機管理課)

**＜中間報告以降の状況等＞**

■とても良い取組で、引き続き続けてほしい。自主防災隊による工夫を凝らした訓練を必要に応じて紹介していく。

**意見4 防災ポケットブックについて**

**【戸室五丁目南自治会長】**

■厚木市の自治会加入率は、63.7%となっている。未加入世帯数が約37,200世帯あるが、災害が発生した場合、緊急避難所が分からず、準備すべき物品もわからない世帯が大多数あると考えられる。

日頃からの防災意識を高めるためにも、自治会未加入者に「防災ポケットブック」を配布すれば、災害時の行動指針になるのではないか。

**【市長】**

■防災ポケットブックについては、災害発生時に市民の皆様を守る知恵と知識を一冊にまとめ、いざという時に役立つよう作成した。令和元年に全戸配布したが、今以上に広まっていくような体制づくりをしていこうと思う。また、必要な部数が分かれば、届けることもできる。

**＜現況・今後の対応等＞**

■防災ポケットブックについては、今以上に活用される体制づくりをしていく。(危機管理課)

**＜中間報告以降の状況等＞**

■転入時に防災ポケットブックを配布している。また、要望があれば必要な部数の配布も可能で、公民館などの市内公共施設にも配布している。